令和４年度第２回日本一の健康長寿県構想高幡地域推進協議会　議事要旨

１　日　時　　令和５年３月３日（金）18:30～19:40
２　場　所　　須崎市立市民文化会館　大会議室
３　出席者　　・協議会委員 28 名のうち 26 名が出席
　　・医療政策課 2 名・事務局 10 名

◆出席委員（敬称略）
〇専門団体
田村委員（会長）、北川委員、髙橋委員、瀧口委員、樋口委員
〇保健医療福祉関係機関
岡村委員、諸隈委員、松岡委員、池田委員、北川委員、森畑委員、髙橋委員、池田委員、大崎委員
〇地域組織団体・住民
熊田委員、戸梶委員、岩﨑委員、山口委員
〇行政関係
中山委員、吉本委員、嶋﨑委員、辻本委員、明神委員、下元委員、長森委員、松本委員（副会長）
◆欠席委員
市川委員、三本委員

議事等概要
１　開　会
２　委員紹介
３　会長・副会長選出
４　会長挨拶
５　議　事

（１）須崎福祉保健所の令和４年度重点目標
【事務局説明】
・第４期「日本一の長寿県構想」で取り組む重点目標について説明
・須崎福祉保健所の令和４年度重点目標　　資料１　で説明

【質疑、意見等】
◆田村会長　≪高岡郡医師会理事≫
資料１の２ページ、疾病の早期発見・早期治療について、瀧口委員は薬剤師として、糖尿病の重症化予防に取り組まれているとお聞きしました。県や市町村においても糖尿病の重症化予防は重要と考えますが、糖尿病性腎症重症化予防プログラムの活用について、瀧口委員からご紹介いただきたいと思います。

◆瀧口委員　≪薬剤師会高陵支部長≫

薬剤師としては、やはり薬物治療をサポートするということで、良い薬でも飲んでいただかないと効かないというところで、服薬のコンプライアンスを上げるといったところでお役に立てていると思っています。

糖尿病の薬というのは、服用規定といいますが、食前、食後とか、空腹時でないといけないものとか、服用の回数が非常に多い特徴のある薬が多く、３食ですと回数が６回を超えるものがありますが、それを処方した先生の了承を得た上で患者さんと話をして、３回で済むような支援をしています。また、高知県薬剤師会としましては、各医療圏ごとの糖尿病治療薬の処方実態調査をやっております。地域ごとに抽出したデータを基に服薬指導チェックシートを作成して、日々の服薬指導の質の向上を行う取組を実施したり、患者さんへの指導資材として、糖尿病に関するパンフレットを配布して、糖尿病に関する理解度を上げる取組をしております。

◆田村会長

ありがとうございました。

それでは、資料１の３ページについて、四万十町は、地域ケア推進会議において、高齢者の見守り事業について協議を重ねられていると、事務局から説明がありました。須崎市もまた、高齢者の見守りについて、GPS 位置情報システムを用いた高齢者の安全確保の取組をされているとお聞きしました。大変良い取組ですので、ご紹介いただきたいと思います。

◆吉本委員　≪須崎市長寿介護課長≫

須崎市も人口減少の中、高齢化は益々進んでいる状況です。その中で独居高齢者あるいは高齢者のみの世帯が増えている状況にあり、孤独死も増え、また、認知症のため行方不明となる高齢者もあり、見守りが必要となるケースが増えてきています。まだ３月議会での予算承認が必要ですが、令和５年度から新たにシルバー人材センターに委託して、見守りを兼ねたゴミ出し支援を事業として開始する予定としています。支援を受ける対象としては、自らゴミ出しをする事が困難、かつ、親族や近所の方からの協力が得られない方で、基本的には介護認定を受けて生活をしている方としていますが、認定を受けていない方でも、市が特に必要と認められる方は対象とできる場合がありますので、ご相談をお願いします。また、認知症のみならず行方不明となる高齢者等の安全確保のため、県の補助を活用して GPS 位置情報システムを用いた機器の初期導入費用の一部を支援する予定です。

◆田村会長

ありがとうございました。

高幡地域は高齢化率も高いということと、独居の高齢者も、高齢者を持つ世帯も多いということです。確かに、家で亡くなられてから病院に運ばれる方もいます。中には亡くなられてから半日くらい経ってから見つけられた方のような事例もあります。いかに独居の方と周りの方との連携を取って行くか、安否を確認するような事を議論しなければならないと思います。そういったシステムを作る事が大切ではないかと思います。

次に、資料１の６ページ、中土佐町では、全ての健やかな成長を切れ目なく、包括的に支援する、子ども、家庭、地域の子育て機能の総合支援拠点として、令和４年４月に中土佐町子どもセンターを設置され、母子保健、児童福祉、教育、地域関係者が連携した取組を進めているとお聞きしています。センターの概要や利用状況、開設してまもなく一年が来ようとしていますが、

取組の手応え、また、課題等についてご報告をお願いします、。

◆辻本委員　≪中土佐町健康福祉課長≫

それでは、子どもセンターについてご紹介をさせていただきます。

令和２年末に久礼保育所の高台移転が決まり、建設計画が一気に進みはじめ、令和４年４月に開設しました。

日本一の健康長寿県構想の中でも以前から、高知県版ネウボラの推進ということが言われており、県の補助金も活用して建物の整備を行うことができました。

センターの特徴としては、妊娠期から 18 歳までの児童とその家庭との切れ目ない支援、そして子どもたちが安心して過ごすことができる場所を提供することとし、現在、職員が保健師、助産師、社会福祉士の福祉職等の専門職をはじめ、全部で 14 名勤務をしています。うち、正職員は６名、会計年度任用職員の常勤、非常勤の８名の 14 名で運営をしております。センター長は、課長補佐職の保健師がなっています。

このセンターには久礼のあったかふれあいセンターまんまるを併設しており、利用者と子どもが一緒に過ごす姿も見られ、世代間交流ができています。

センターの内容としては、５つの機能を備えております。

１番目として、子育て世代包括支援センターは、妊娠、出産、子育て世代の方の支援機関として、保健師や助産師が育児相談や家庭訪問を行う等、関係機関と連携しながら子育てをサポートしています。

２番目は、乳幼児の保護者やこれから子育てをはじめる保護者が気軽に母子相談や、親同士の交流ができる場所として利用していただける、「子育て支援センターはぐ」です。

３番目が、子どもの虐待や育児が困難で支援が必要な家庭等に必要な支援や相談対応を行う子ども家庭総合支援拠点

４番目は、学校に行きづらい生徒・児童の居場所のひとつとなる「適応指導教室あいあいルーム」です。医療ソーシャルワーカーが常駐しており、学校と連携しながら子どもに合わせた自立支援を行っています。

５番目ですが、教育委員会の管轄になりますが、青少年育成センターです。常勤の補導員が勤務しており、不登校や非行など、若者とその保護者などの悩みに対応しています。

子育てセンターができてからは、専門職による相談や家庭訪問などより細やかな支援体制がとれるようになったと思います。また、教育と児童福祉、母子保健の分野がひとつにまとまったことで、子どもの情報共有や支援についての協議を進めやすくなりました。

これからこども家庭庁ができることにより、こども家庭センターへの移行が進んでいくと思いますが、中土佐町としては、こども家庭総合支援拠点を一緒に、同じ場所に作ったことでスムーズに移行ができるのではないかと期待もしています。

課題としては、様々なケース対応を行うために専門職が必要ですが、なかなか確保ができず、非常勤職員に頼っているのが現状です。また、先ほど申しましたが、平日保育所に通うお子さんが多くて平日の利用者が少ないため、休日開催を望む声も多く聞かれていても、なかなか休日開催が難し状況にあり、どうしていくかも課題となっています。まだ、稼働して１年と浅く、現在も日々試行錯誤しています。今後も連携強化を図りながらセンターの基盤づくりに力を入れていきたいと思っています。

◆田村会長

ありがとうございました。

子育て支援センターは、適応指導教室もあり、なかなかきめの細かい子育て支援をされていますね。

子育ても大切ですが、少子化対策も課題となっております。先日高知新聞に掲載されていましたが、高知県の出生者数が 4,000 人を切ったとの事です。そこをなんとかしないといけないなと思います。数少ない子どもさんに手厚い支援をしていくのも非常に大事な事だと思います。これからも是非頑張っていただきたいと思います。

（２）健康づくり推進部会の活動報告

【熊田委員報告】

・令和４年度健康づくり推進部会活動報告　　資料２　で報告

【質疑・意見等】

◆田村会長

確かに糖尿病の方は非常に多いですし、肥満の方も非常に多い。やはり食生活は大事だと思います。健康づくり推進部会におきましては、今後も職場の実態に合わせた健康づくりに取り組んでいただき、地域と職域の連携をさらに強化していただけるようお願いします。

特に意見がなければ、以上をもちまして本日の議事を終了いたします。

６　閉会